

地震一口メモ No.124

津波による災害への備え

夏になると、海水浴などで海の近くを訪れる機会が増えるのではないのでしょうか？ 今回の一口メモでは、津波による災害への備えについて紹介します。

気象庁は津波による災害の可能性がある場合、地震発生から約3分後を目標に津波警報等を発表します。津波警報等は、予想される津波の高さによって、高い方から「大津波警報」・「津波警報」・「津波注意報」と分類されます。海水浴や磯釣りのように海の中や海岸の近くにいる場合は、「津波注意報」でも避難する必要があります。また、いつも津波警報等を見聞きできる状況にあるとは限りません。そういう時でも命を守るために必要なポイントは次のとおりです。

**海岸で 強いゆれを感じたり または
弱くても長い時間ゆっくりとしたゆれを感じたら
すぐに 海から離れ 高台や津波避難ビルなど安全な場所へ避難！**

また、旅行などで見知らぬ土地を訪れることがあります。自然災害に対する備えの一つとして、目的地でどのような災害が想定されているのかを各市町村が作成したハザードマップなどであらかじめ調べておくことが大切です。例えば、大阪市は地図情報サイト“マップナビおおさか”を設けています(図)。このサイトの防災情報マップでは、地図上に南海トラフ巨大地震で予想される津波による浸水想定区などを表示でき、津波避難ビルや災害時用ヘリポートなどの防災関連施設の場所も確認することができます。

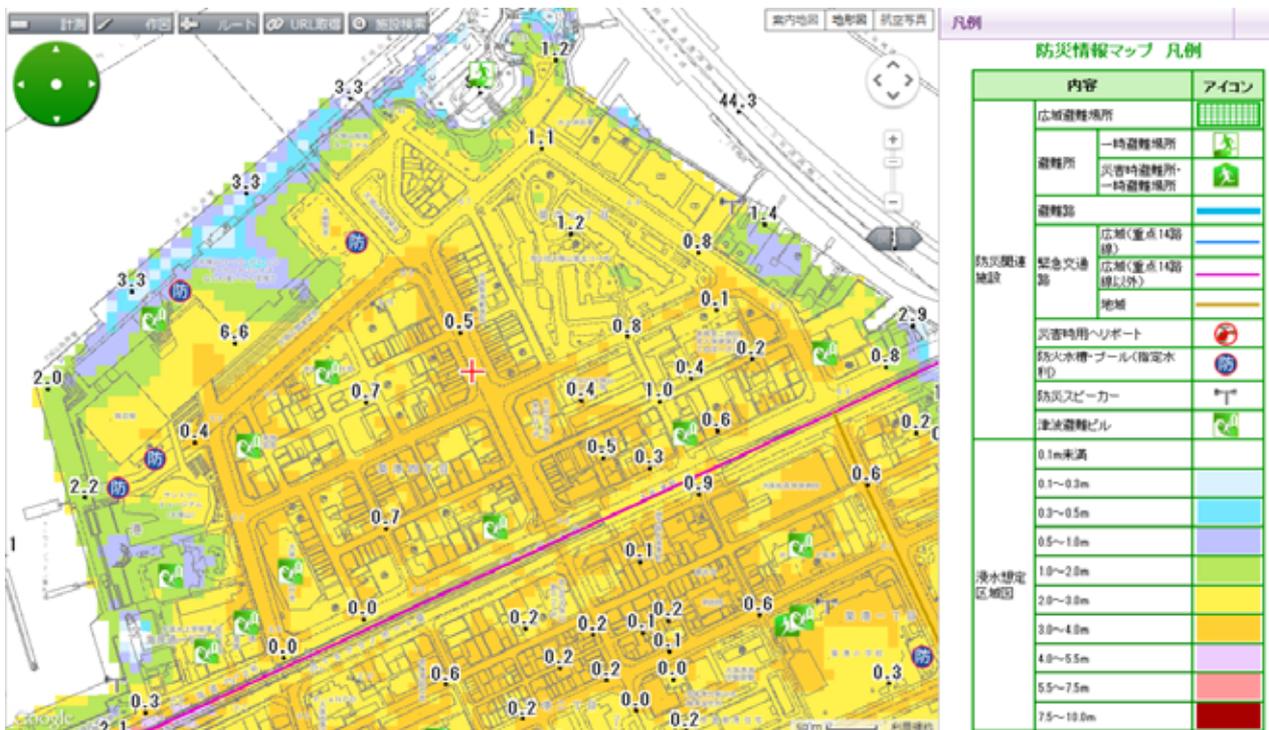


図 防災情報マップの例(大阪市港区の一部、図中の数字はT.Pからの標高の目安(m))
(マップナビおおさか <http://www.mapnavi.city.osaka.lg.jp/webgis/index.html> より)